

## 1月15日 比企地区中高英語研究協議会・授業研究会及び講演会



(ワークショップ形式のご指導、参会者の中高の教員が6つのグループに分かれて協議した。 於：菅谷中、多目的室 14:30～16:30)

## ● 参会者アンケート結果 ●

(今回の授業では、学校研究課題において「形成的評価の具体化」ということがあった。以下、評価に関するコメントには下線を引く)

## ①「授業について

- ・いろいろな部分を参考にしたい
- ・子供たちが真剣に授業をうけていてすばらしかった
- ・復習をたくさんやっていて、自分もそうしようと思った
- ・復習がいろいろあって良かったと思う
- ・一人一人によく声をかけていた
- ・座席別評価補助簿には驚いた
- ・良く生徒をサポートしながら授業を進めていた
- ・生徒に何も指示をしなくても暗記までできていて感心した
- ・少人数のため落ち着いた授業になっていた、生徒が少しおとなしい？
- ・アイデアの豊富さには感心です
- ・ペア活動が日ごろから良くできていると思いました
- ・インフォメーションギャップのゲームが良かった、全員に聞かないと答えが分からないというのが良かった
- ・復習でいろいろな手法を用いているところがさすがだと思いました
- ・少人数指導で個々に評価されていたので良かったです
- ・授業規律がしっかりしていた、次に何をするのか生徒が分かっている流れがスムーズだった
- ・形成的評価は良く分かりません、もっと勉強します
- ・英語の授業は力と勢いが第一だと思っていたが、今日のような落ち着いた授業もありだと思ふ
- ・復習の QA で生徒が Sentence で答えさせる習慣をつけさせていて、尚、良く定着しているのが刺激になった
- ・評価については分からない、本日使用していた評価補助簿の使い方、活用法を聞いてみたかった
- ・生徒が先生の英語や指示によく反応している、音読の声も大きい、このまま3年間がんばってほしい
- ・ワークショップ形式でとても分かりやすかった、明日からの授業にすぐに使えるものが多かったと思う
- ・普段と異なる研究協議で非常におもしろかった、自分の授業を振り返ることができた
- ・生徒の声も大きく、普段からの繰り返し、motivation を高める努力をしているのだなーと感心した、たくさんネタをもっているようで、一回分の授業(50分)でこんなにネタを出してはもったいないなと思った
- ・一人一人に活動を多くする工夫がなされていてすばらしい、反面、復習が多すぎたのではないかな
- ・ALT とのやりとりが落ち着いていて、安心して見ていられた、指導のアイデアが盛りだくさんで、よく時間内でこなしていた
- ・インフォメーションギャップの評価は難しい、チェックシートを活用した方が良い
- ・評価場面ごとに設定されていたので、授業後にどのような評価をしたのか分かるコピーをいただければもっと勉強になった、声かけやアドバイスは細かくされていたので生徒は意欲的に活動していた様子だ

その他、「ご苦勞でした！」とのコメントが多数ありました

## ②ご指導・ご講演について

- ・先生のお言葉を実践に移していきたい
- ・素晴らしいご指導でした、教わったことをこれから噛み砕いて自分の力にしていきたい
- ・早速、Unit9-1 で実践します
- ・実践的な内容で大変勉強になりました、半日くらい講義を聴いてみたい
- ・“Sharing”ということの大切さが分かりました
- ・教科書のないうちについて役に立ちます
- ・自分の授業を反省することができた、教科書の1ページ、1単語を深く掘り下げて指導をするなんてすごい！と思った、教材研究をもう一度考え直したい
- ・講義形式が参観者参加型でとても有意義でした、飽きることがありませんでした
- ・英語授業の目標の重要さと意味が良くわかった
- ・プロ意識をもっともって授業に臨まなければならないと思った
- ・Student-centeredの考えのもとGoalを見据えての指導からプロの指導が生まれたのだと思う、自分に厳しい姿勢は学ばねばと思います
- ・いろいろとお話を伺い、目からウロコなところや耳の痛いところがたくさんあった、明日からの授業への活力と勇気ももらった
- ・「理解→習熟→習得」という流れ、「理解→暗記→入れ替え」という応用の流れは自分でも大切だと思っていましたが、それぞれの活動を生き生きと、生徒を生かして楽しく授業していくヒントをもらえて今後には生かそうと思いました
- ・本当に勉強になりました、今までにない研究協議でした、Participationも上がりクラスに行かせるやり方だと感心した
- ・あらゆる活動がGoalを見据えてつくられている、そしてそれが効果的な流れにつながっていると思った
- ・授業のような講演会で良かった

その他、感謝の言葉が多数ありました

## 質問)

- ①パフォーマンステストをどれくらいの割合で、どんな流れでやっていけば良いのか？
- ②カテゴリA-Dはどんな理論？ 具体的にもう一度説明がほしい、今一步理解できなかった

## ●ご指導の中で話題になったこと●

- ・授業の中でスタンプを押していたが、それは是か非か：公平さに欠ける？私はやらなくなった（田尻先生）
- ・復習の活動が長すぎないのか：「理解→習熟→習得」の流れの中で、戦後62年間、「習熟させること」が無かったので「習得」されていない、繰り返して良いのではないのか、新出事項をひたすらやるので良いのか、復習は長くて良いのではないのか（田尻先生）
- ・三単現Sの復習に絵を用いたが、弟さんを紹介する絵ということだった、身近な題材としてそれで良いか：臨場感を生み出すには役立つ
- ・「今日の松本先生の授業では一対多が多い、生徒がニコニコしてない＝生徒に手応えがないだろう」（田尻先生）

## ○その他、キーワード○

- ・伸張感、達成感
- ・違いを楽しませること
- ・“Fast learner”からの指示で授業が成立すること
- ・興味、関心、意欲とは本来は指導者側の課題（意欲づけできる指導内容教材か）
- ・教師の意図とは別に機能が存在している

Category A=意味構造理解

Category B=暗記

Category C=入れ替え

Category D=応用(初聴、初説で分かる、頭の中にあることを話すとか書くとか。。。)

- ・どんな風になりたい？どこまでいきたい？Goalは？→今やっている活動の意味がはっきりする
- ・Authenticな人と、緊張感を乗り越えてこそその達成感や伸張感

- ・「あなたも英語の先生」、共同学習形態の工夫
- ・生徒のプライド、恥はかきたくない→指名の改善
- ・今日の異文化理解カード(「世界がもし20人の村だったら」)のような授業へのこだわり